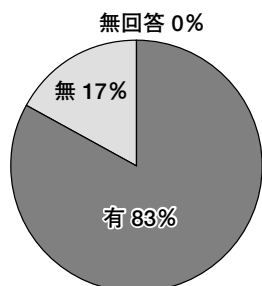


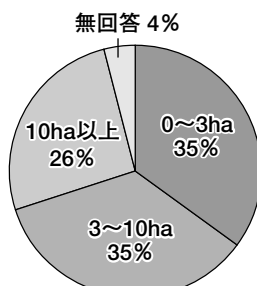
山林における間伐・搬出及び保全育成活動に関するアンケート 集計結果の概要

今年2月、町産業建設課では小規模林産現場による林地残材搬出システムを構築するために、山林所有状況や山林(林業)活動に関するアンケートを実施しました。対象は町内全世帯(3,548)、回答は852人(24%)からいただきました。

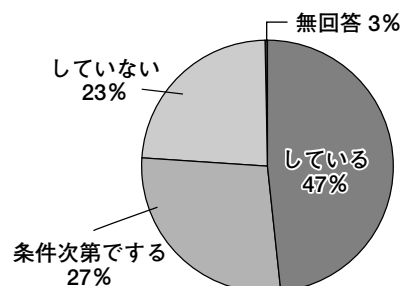
問1 山林を所有していますか？ 問2 山林所有面積は？



※回答者のうち8割以上の方が山林を所有、その6割強の人が3ha以上 所有していると答えています。

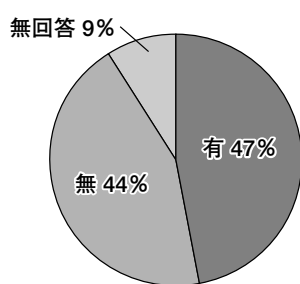
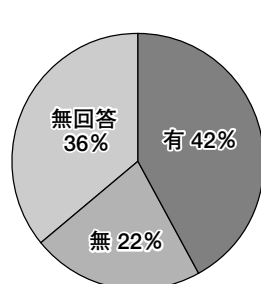


問4 間伐等を行っていますか？



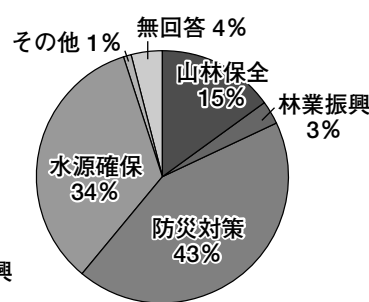
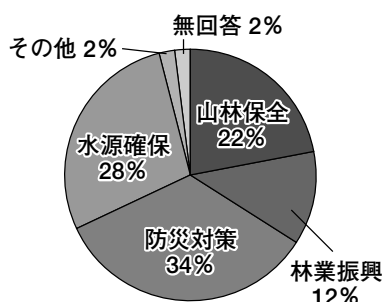
※所有者の7割強は山林の手入れ(間伐等)を行っています。

問7 山林保全・育成等活動への参加意志はありますか？
〈山林所有者〉 〈山林未所有者〉



※山林ボランティア活動への参加意志を聞いています。所有者、未所有者とも約半数の人が参加を希望すると答えています。

問8 山林活動への参加内容は？
〈山林所有者〉 〈山林未所有者〉



※問7に関連して、ボランティア活動の内容を聞いています。未所有者は林業振興への関心が所有者に比べて極端に少なくなっています。

集計を終えて：

林業界の現状を反映するように、山林を持ちかつ六十歳以上の方々の回答を多く得る結果となりました。そのなかで、三ヘクタール以上の山林所有者の山への思いと意識の高さが伺えました。

経済面や高齢による肉体的限界などから、山林管理を放棄せざるを得ない所有者が多く潜在していることが浮かび上がり、かつ作業道敷設への支援や技術指導等を受けられるならば、山林管理を復活させたい意向を持つ所有者が多く存在することが分かりました。

一方、今後、山林活動への参加意思を持つ方も回答者数の約半数を占め、山への関心度の高さを伺い知ることができました。

関心度が高かったのは、「防災対策」「水源確保」を目的とした山林活動であり、昨今の世相を反映して自然災害や環境問題を反映した結果となりました。なかでも、山林未所有者の意向が強くあらわれていました。(山林所有者は、「防災対策」、「水源確保」に加え、林業振興にも関心を寄せています)

このアンケート結果をこれからの林業行政やバイオマス実験事業に役立てていきたいと考えています。ご協力ありがとうございました。

なお、詳しい結果をお知りになりたい方は産業建設課(☎35・1083)までご連絡ください。

新緑の長者地区を ウォーキング

晴天に恵まれた五月二十日、約四十人の参加で健康ウォーキングが行われました。

役場長者出張所を出発し、新緑の中を歩くこと約二時間、星ヶ窪に到着。澄んだ空気の中で昼食をとったり、コスモスの種をまいたりしました。また同行していただいた坂本世津夫高知大学教授の「地域の宝を再発見」と題したミニ講演も行われました。

この後、さらに三ヶほど山を登り、鳥形山と津野町の二十基の風車が見える地点まで行き、素晴らしい風景を楽しんだ後、帰路につきました。



往復約14kmのコースを気持ちの良い汗を流しながら、大いに自然と触れ合った参加者

スポーツ

第2回さくらクラブ吾川春季ゲートボール大会

5月16日、町民運動場に3チームが参加。
優勝 中津



中津チーム

第31回県民スポーツ大会吾川地区大会ゲートボール大会

5月23日、いの町「すぱーく吾北」に本町5チームを含む9チームが参加。
優勝 池下 第2位 上八川(いの町)
第3位 中津



池下チーム

第31回県民スポーツ大会吾川地区大会スカッシュバレーボール大会

5月27日、いの町吾北体育館に本町から5チームが参加。
女子の部優勝 長者スカッシュバレー
壮年の部優勝 池川Bチーム



長者チーム

清流クラブ池川・池川グラウンドゴルフ大会

5月26日、池川山村広場に小学生7人、一般23人 計30人が参加。

小学生の部	優勝	岡林 佐記 (池川小5年)
	準優勝	中川 希穂 (名野川小6年)
	第3位	松本 夕 (池川小4年)
一般の部	優勝	大野 裕明 (相の谷)
	準優勝	藤原 末秀 (下土居)
	第3位	岡田ハナ子 (下土居)

ニアピン賞

小学生の部	細川みなみ (大崎小6年) 2m25cm
一般の部	大野 裕明 (相の谷) 0m



愛好者が増えている
グラウンドゴルフ

清流クラブ池川・池川ゲートボール大会

5月31日、池川山村広場にゲートボール愛好者、28人が参加。

くじ引きで6チームに分かれ、勝ち負けより「みんなで楽しく」をモットーに楽しみました。



狙って〜!

第2回仁淀川町体育会交流ゲートボール大会

6月6日、町観光センター運動広場に8チームが参加。

優勝 中津B 準優勝 中津A 第3位 池下

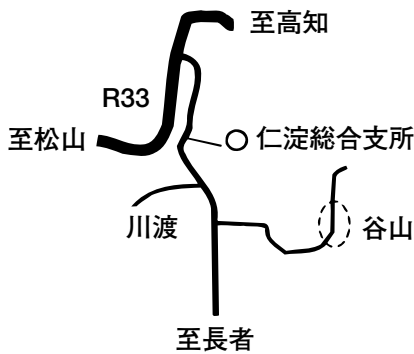
集落見聞録

(第20回)

谷山
にや
たま

谷山は、仁淀総合支所から車で約十五分、五月末現在十六世帯、三十八人の集落です。大昔、大干ばつが続き、ほかの村には種子が皆無となりましたが、この集落だけは蔭地と水に恵まれていて雑穀が実り、村々へ種子を分けてやりました。人々は種山と呼ぶようになり、地名となりましたが、いつしかこれになつたて、谷山というようになったといわれています。

谷山では、古くから伝わる三大行事を変わることなく続けています。「虫送り」「火回し」「佐婆為神社の嫁入り行事」で、集落の方々は「いわれある伝統行事は続けんといかん」



谷山集落

かん」「みんなあ、仲がええけ続きゆう」「昔の人は行事をする事によって集落の結束を固めよつたんじゃないろうかね」と話していました。

集落の結束固める3大行事 いわれある行事は続けんといかん

6月20日の夕暮れ近くに集会所に集合。「奉齋藤別当実盛公 悪虫供養 南無阿弥陀仏」などと書いたのぼりを各自が持ち、かねや太鼓を打ち鳴らし「サイトウベツトウ サイノボリ 稲の虫をほうくった」と、害虫を追い払う呪文を唱えながら集落を一回りします。最後にのぼりを谷へ投げて、今年の豊作を祈ります。

写真は今年の虫送りで、のぼりを持って記念撮影。町外からの参加者も。

虫送り



火回し

8月15日、御大師堂で行われます。たいまつを約3mのロープの先に取り付けたものを、大きく弧を描くように振り回します。先祖の霊を迎え、豊作と家内安全を祈る、幻想的な行事です。(写真は今年の火回し)

嫁入り行事

佐婆為(さばえ)神社の冬の祭礼(11月3日)に行われています。

その昔、平家の落人がこの地に落ち延びました。その中に美しい姫がいましたが、あるとき思いがけない事故で死んでしまいます。村人は姫の死を哀れみ、嫁入りをしないうちに他界した姫のために、儀式だけでも行い、霊を慰めようと始まった行事であると言われている。花嫁、鼻高などに扮した6人が集会所から神社まで練り歩きます。(写真は仁淀村史より)



しもなの郷が世界の拠点に 宇宙電波観測プロジェクト

昨年一月、NASA（米国航空宇宙局）の教育プロジェクトの一環として、山村自然楽校しもなの郷に吾川木星電波観測所が設置されました。観測データを世界に同時送信する国内唯一の観測所として、木星電波や太陽からの電波放射を観測し、多くの成果を上げています。

さらに文部科学省科学研究費の採択を受け、今年十月には、高知高専が観測所に新たにアンテナを設置することになり、宇宙電波研究プロジェクトとして、しもなの郷が世界の観測拠点になるうとしています。

宇宙への関心が深まる中、六月十六日、中央公民館で、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の岩田隆浩先生、高知高専の今井一雅先生を講師にお招きし、「日本の宇宙開発はここまできている」と題して記念講演が行われました。岩田先生からは、「月の起源」と「月の進化の謎」の核

講演「日本の宇宙開発はここまできている」で概要説明

心へ迫ろうと今年八月十六日に岩田先生自身が開発に携わる月探査機（愛称・かぐや）の打ち上げが予定されていること、また太陽系の惑星についてなど、壮大な宇宙の話をしていただきました。今井先生からは「十月に設置されるアンテナは、高さ約十七メートルの鉄塔の上部にアルミ製で『X』字型に組み合わせ、電波を受ける。六億キロ離れた



今井先生の講演



設置するアンテナの予想図

木星から地球に届く電波の発生メカニズムを研究し、太陽系誕生の謎に迫るとともに、エネルギーを効率的に変換する仕組みが分かれば、エネルギー問題解決の鍵が見つかる可能性もある。また将来、吾川観測所が電波研究の拠点だけでなく、科学を勉強する子どもたちが集まる場所にもなっている「など」と話していただきました。熱心に聞き入っていた参加者からは、宇宙が身近に感じられるようになった、世界的に名の知れることとなったしもなの郷は素晴らしい、などの感想が聞かれました。

東西南北まわり舞台 本町の30人も自慢の芸披露

6月3日、高知市中山間地域構造改善センター（旧鏡村）で、第26回中央地区文化交流発表会＝東西南北まわり舞台が開催されました。

吾川・長岡・土佐郡と高知・南国市の文化サークルなどでつくる中央地区文化協会が毎年開いているもので、9市町村15地区のよりすぐりの芸能愛好家らが自慢の芸を披露しました。

鏡地区の郷土芸能「大利の太刀踊り」でスタートした舞台では、本町からの約30人の出演者も詩吟や民謡、舞踊、歌謡曲を堂々と発表し、会場からは惜しみない拍手が送られました。

今回は懐かしい曲のバンド演奏や、若者によるものまね歌謡曲がメドレーで披露されるなど、例年とは一味違った雰囲気での楽しい発表会となりました。



舞踊



詩吟



剣舞

地域にある宝を掘り起こそう！

長者地区と森山地区で講演会



森山地区には約60人が参加（森山集会所）



講演をする藤川課長補佐。右は吾郷所長（森山集会所）

体験など教育効果を期待できる取り組みもある。地域にある宝を掘り起こして、自分たちのできることから始めてみましょう」と提案がありました。

また藤川課長補佐は、田舎で地域活性化に取り組んでいる先進地の例を紹介しながら「農産物の販売や、地域の施設、畑を利用したの農業体験など難しいことではありません」との話がありました。

両会場とも参加者は、講師の話に真剣に耳を傾け、これからの地域活性化について思いを巡らしているようでした。

地域の活性化をテーマに

六月十日、地域の活性化をテーマにした講演会が、長者地区と森山地区で開かれました。

長者地区では「だんだんくらぶ」が荒れた棚田に花を植える活動を、森山地区では自主防災組織を結成するなど、両地区とも自主的な活動を行っています。

講演は、これらの活動を基に、さらに地域の素材を生かして活性化させようと、中四国農政局農林振興課の藤川敏信課長補佐と、高瀬農地保全事業所の吾郷秀雄所長が講師となつて行われたものです。

吾郷所長からは「地産地消や食育、農業



だんだんくらぶが植えたハナショウブ。6月17日にはショウブまつりも行われました（長者）



長者地区には約60人が参加（長者出張所2階）

椿山に響きわたる太鼓の音

伝統行事「虫送り」

六月二十日、豊作を願い、害虫を追いかう伝統行事「虫送り」が椿山で行われました。また町の無形文化財にも指定されている「椿山太鼓踊り」も奉納されました。

午後一時過ぎ、地区内の人々が氏仏堂に集まり、まず

「般若心経」を唱えた後、御神酒をいただきます。御神酒は見学客にも振る舞われ、和やかな雰囲気。

続いて、境内で太鼓踊りが奉納されました。この踊りには、池川青年団の若者たちも

伝統を継承しようとして練習を重ね、毎年参加しています。

最後に、「南無阿弥陀仏」と書かれた紙とわら草履を結びつけた青竹を持った祭当番を先頭に、行列を組み、下方の川に向かって練り歩きます。川に着くともう一度太鼓踊りを踊った後、青竹などを流し、虫送りの行事は終了しました。



太鼓踊り



青年団から参加した紅一点

今年も、町内外から大勢の見物客がカメラを手に訪れました。須崎市から来た女性も「毎年来ています。厳粛な雰

囲気と、素晴らしい景色をいつも楽しんでいます」と話していました。



虫送りの行列

山のものはいらんかね？

しもなの郷で「山のなんでも市」

6月17日、山村自然楽校しもなの郷で、「山のなんでも市」が開かれました。

木工品や山野草、ミニ盆栽、野菜など、山にあるもの、山で作ったものを地域の方々が持ち寄り販売するもので、町内外から訪れた大勢の人が買い物を楽しんでいました。



丹精込めた鉢植えなども販売